

タクシー業界、配車アプリ参入で競争激化

テクノロジーの急速な進化によって我々の生活も変化し、便利になっている。スマートフォン1つでドライバーと利用者を繋ぐ配車アプリは、その一例ではないだろうか。代表的なプレイヤーとして、世界488都市で利用可能なUBERや東南アジアで大きなシェアを占めるGrab、最近UBERチャイナ買収で話題となった中国の滴滴出行（DiDi Chuxing）などが挙げられる。ベトナム国内でもUBERやGrabが利用され、滴滴出行（DiDi Chuxing）も数年後にベトナム市場進出が発表されている。

B&Companyが行ったタクシー利用に関する調査結果（オンラインパネル Bean Survey 利用）で、全対象者（203人）の34%がタクシーを利用する際、UBERやGrabなどの配車アプリを利用すると回答。利用頻度は、約28%が「毎日、または数回/週」、約40%が「数回/月」利用すると回答している。

アプリ利用の理由で一番多かったのが、「一般的なタクシーよりも安い（約68%）」であった。一般的なタクシーが1km当たり11,000ドンをチャージするのにに対し、UBERは5,000ドンであることから低価格が配車アプリ利用の魅力の1つと考えられる。また、「車を呼ぶのが簡単（約58%）」との回答も多く、低価格に加え、利便性の高さもユーザーを引きつける要因の1つとなっている。

配車アプリは低価格と利便性の高さでユーザーを魅了し、ユーザーシェアを集めている。既存のタクシー会社には、乗客の安全配慮やドライバーの指導、納税の義務が課せられているが、UBERなどのニュープレイヤーにはそれら義務が一部免除されている。そのため、運営費を抑えることができ、低価格提供が可能となっている。

このニュープレイヤー達の活躍を既存のタクシー業界はどう見ているのか。昨年11月、HTA（Hanoi Transportation Association）が業界関係者向けに開催したセミナーでは、UBERやGrabなどのニュープレイヤーが、タクシー業界全体に与える影響について議論された。また、これら業界団体は、ニュープレイヤーへの規制を強化するよう何度も政府に要望を出している。

各タクシー会社の動きをみると、Mai Linh、Vinasun、Taxigroupなど大手タクシー会社は、独自の配車アプリをリリースし、ニュープレイヤー達に対抗。Mai Linhは2015年からエコカープロジェクトを開始し、今後10年間で10,000台の電動タクシー導入計画を発表。ハノイでは既に100台導入が完了している。環境に配慮したPR戦略で差別化を図る狙いが伺える。

ベトナムのGeneral Statistics Office発表によると、2005年から2015年の間に、ハノイは600万人から750万人、ホーチミンは630万人から820万人に人口が増加。別のデータ（MarkLines）では、過去5年間で乗用車の売上が毎年45%増加している。経済の急速な発展と人口増加に伴い、交通量の増加が予想される。政府や地方自治体にとっては、交通渋滞が深刻な都市問題へと発展する可能性がある。ハノイ市は既に、2025年から中心部へのバイク通行禁止計画を発表している。



ニュープレイヤーにとって、現状の規制免除、低価格、利便性における優位性、将来的な交通量増加などの追い風要素は多い。一方、既存業界による規制強化へのプレッシャー、既存タクシー会社のアプリ事業参入、将来的な交通渋滞への懸念など、彼らにとって向かい風に成り得る要素が存在する。これらのプレイヤー達がどう私たち一般乗客に快適さをもたらしてくれるか、今後の動向が注目される。